

よぬだ ところどころ



第二十三号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

則光の別所池周辺の变化

さくらの森公園

上記の空中写真・地形図は、美濃加茂市地理情報システムからの転載である。

前号では別所池周辺の様子を説明したが、今回はため池の施設が木曾川右岸用水の通水で不要となったため、ため池がどのように変化したかを説明してみたい。

東山のため池は江戸時代から則光の稲作の生命線であった。東山を構成する高位段丘は山之上的地質と同じで、これが雨水により運ばれ、扇状地となったことは前述した。この谷筋を利用して、谷池が数段にわたってつくられているが、これらの事情は山本地区も同じである。役割を終えたため池は、調整池を除いて埋め立てられ、下米田グラウンドとして整備されていることがわかる。毎年秋にはこのグラウンドを利用して地区の運動会が開催されている。

また、元の池の周辺は、東山森林公園下米田さくらの森として整備され、春の桜の季節には、花見の市民でにぎわっている。

このような意味では、ため池が有意義な利用に変化したと思われるが、問題は植生の変化と土地の表面がアスファルト等で被覆されたことである。最近の気象現象は想定外の規模が常態化しており、何百年に一回の降水現象が発生したとき、流水スピードと量がどのような影響を周辺にもたらすかである。十年ほど前に和知の野上で大洪水が発生し、人命も失われたことは記憶にとどめておかなければならない。加えて、周辺の変化としては、東海環状道の白山トンネル、とさくらの森通りとして新設された道路がみられることである。環状道については、スマートインターの設置が将来的には必要とされるであろう。

